

どうなる地域医療構想

地域医療構想とは

総人口の減少が続く中、団塊の世代が75歳以上を迎える平成37年を見据えた取り組みです。

病床機能の種類を高度急性期、急性期、回復期、慢性期の4分類にした上で地域ごとの医療需要、必要病床数と合わせて、将来の医療提供体制を実現するため、現在、三重県では8つの地域医療構想区域に分け、地域の医療関係者、医療保険者、行政等で組織する「医療構想調整会議」において議論し、平成28年度末には、県が「地域医療構想」を策定します。



林業活性化に向けて

答

燃料の安定供給に向け、間伐材等の未利用材の生産を促すため、低コスト造林による主伐の促進により素材生産量の増大に取り組んでいる。近隣県も含めた森林組合や素材生産業者などを訪問しているほか、バイオマス専用運搬車等、事業者による木質バイオマス供給設備の導入支援を行っている。

大型合板工場が県内林業に与える影響

問

近く多気町に大型合板工場(日新)が建設される計画である。今後の林業の活性化に向けてどう生かしていくのか。

答

大型合板工場の整備によってB材の安定需要が創出されることで、素材全体の生産が拡大する見込みがある。今後は川上から川下までの木材関係者がサプライチェーンを構築してとくにA材の需要拡大に注力していきたい。



小片野町の三重エネウッド株式会社

地域包括ケアシステム
在宅医療体制の整備

答

地域の救急、災害医療などを担う医療機関の役割については留意する。また、急性期機能の見直しと、地域で不足する回復期機能の充実について、救急医療体制に十分配慮した上で、地域の関係者による議論を慎重に進めていきたい。

要望

急性期病床が減って、二次救急が確保されるのか。急性期から慢性期、慢性期から在宅へと流れが強くなって行く中で、受け皿となる地域包括ケアシステムや在宅医療体制が整うのか疑問が残る。「地域医療構想調整会議」の意見を踏まえて地域医療構想の策定に当たっていただきたい。

必要病床数推計ツールに基づく推計(松阪地区)

区分	平成37年度 必要病床数 (a)	平成27年度 報告病床数 (b)	過不足 (b)-(a)
高度急性期	222	167	△55
急性期	641	1,290	649過剰
回復期	629	225	△404
慢性期	337	541	204過剰
計	1,829	2,232 休棟等9床含む	403過剰

出展：三重県健康保険福祉部医療対策局 修正して引用

三病院の
輪番制が崩れる??

問

平成27年度の松阪市内の3つの基幹病院の救急車の受入れ総件数は、14,304件(中央病院6,157件、済生会松阪病院4,752件、松阪市民病院3,395件)であり、1日40件の受け入れを